



# IPv6・アニマルコミュニケーション



## 現在の日本

私たちの生活になくてはならないもの・・・それは、ペットです。現在、日本全国で犬は約1000万匹、猫は約600万匹が飼育されていると言われています。

もし、このたくさんのペットたちの本当の気持ちを手に取るように分かったら・・・それは、素晴らしいことではないでしょうか。

## 現在ある商品の問題点

- ・ペットの鳴き声で気持ちを判断しているため、正確性にかけている。

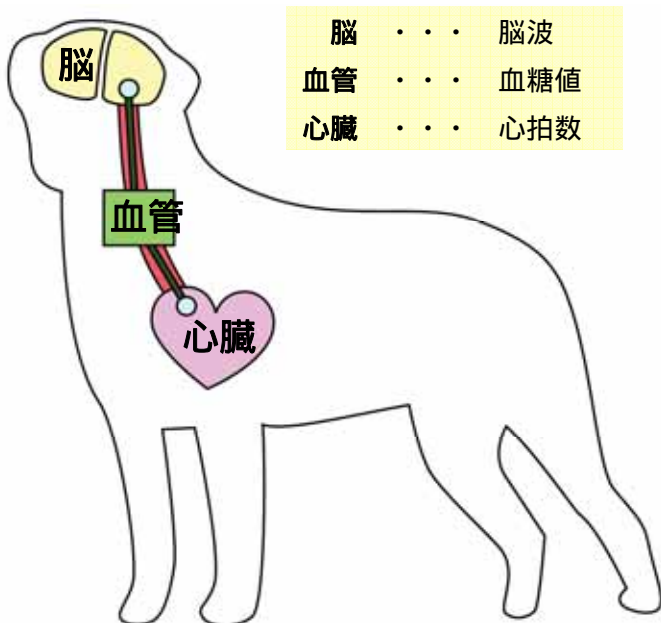
ペットの鳴き声を声紋分析し判断をするものなので、鳴き声の大きさや周りの雑音によって、正確な判断が出来ないことがありましたn。

- ・種類が限られている。

声紋が登録されていない種類の動物に対しては、使用することが出来ませんでした。

## IPv6を使用した、動物とのコミュニケーションシステム

ペットの体内に、小型の機械を埋め込みます。埋め込んだ機械は、それぞれの部位に電極が伸びていて、その部位の情報とペットの現在地を、外の機械に送信します。



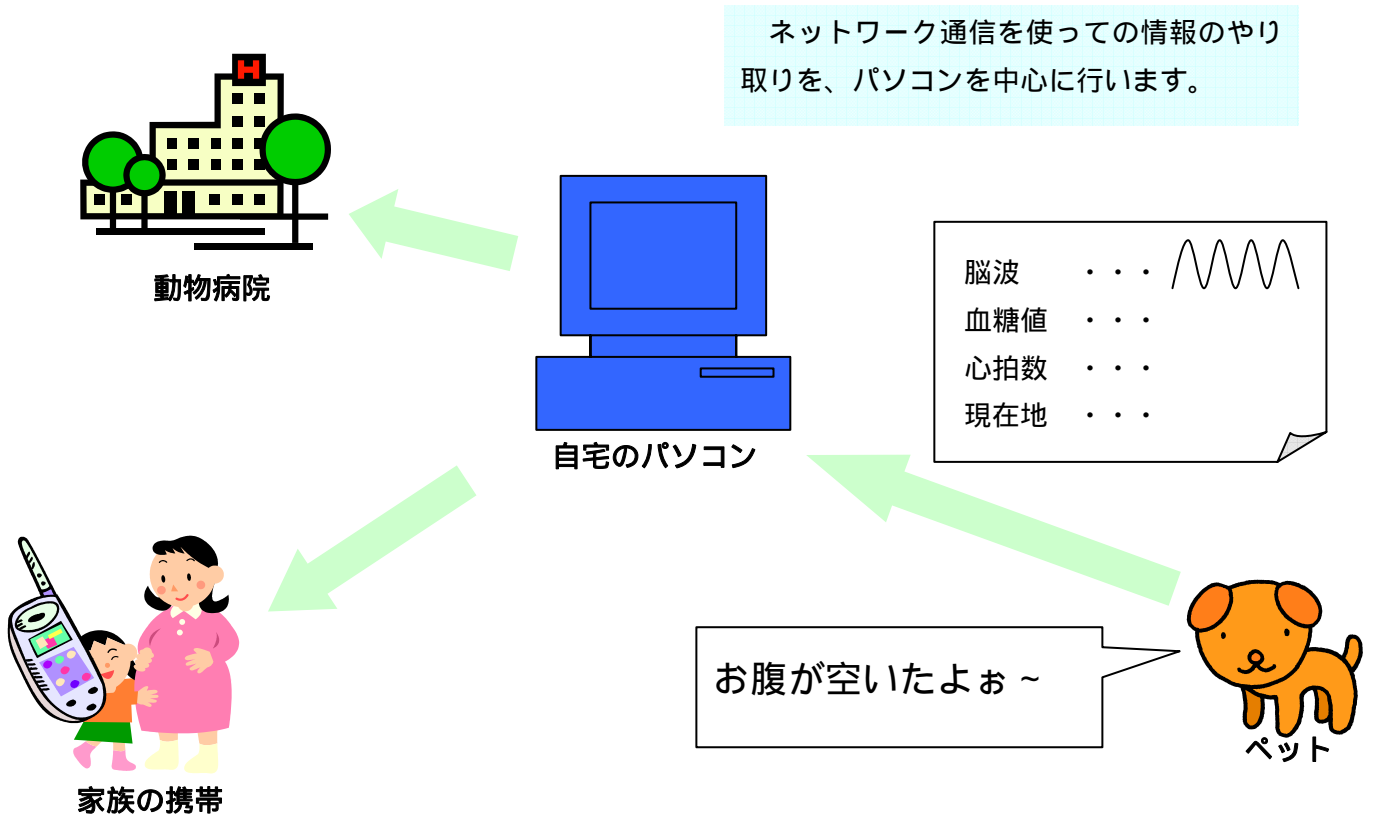
**脳波(良) + 心拍数(多)**  
嬉しい・楽しい・気持ちがいい など

**脳波(悪) + 血糖値(低)**  
お腹が空いている

**脳波(悪) + 心拍数(低)**  
眠い



## システムのネットワーク



## システムの特徴と、他の技術への応用

- ・ 3つの情報からペットの気持ちを掴むので、正確である。

脳波・心拍数・血糖値の3つの情報で判断が出来、周りの状況に影響されにくいので、結果が正確である。また、IPv6を使用しているので通信が安定し、より正確に判断できる。

- ・ 通信が可能になり、急な変化に対しても行動が速く取れる。

ペットの急な態度の変化を脳波や心拍数によって把握できるので、もし泥棒に入られたときの防犯や、病気や出産にも迅速に対応が出来るようになります。

- ・ どんな動物にも使用することが出来る。

脳波・心拍数・血糖値の情報なので、動物全般に使用が可能です。マウスでの実験や類人猿での実験など、より正確な実験が可能になります。

